
遊戯王 Eternal Bonds

Astaroth8560

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王 Eternal Bonds

【Nコード】

N6409Z

【作者名】

Astaroth8560

【あらすじ】

とある街で日常的に楽しくデュエルしている
ペンギンモンスター使い 天銀 遊泳。
ある出来事から彼の本当の人生が始まる。

登場主要人物紹介（第2話まで）

登場主要人物紹介（第2話まで）

てんぎん
天銀 遊泳

年齢 15

性別 男

髪型：茶髪で右目に垂れていて、

左半分の髪が一部立っている。

目の色は青。

誕生日 1月10日

：料理はだめ、勉強は論外、だがデュエルの腕前は人一倍あり、デュエルを愛する少年。

過去に大きな事故に遭い、両親を失い、今は親友カインとともに生活している。事故の詳細については本人はほとんど覚えていない……。

今はデュエルアカデミアのデュエル部に入部しており、授業はデュエル関連の授業のみに出席することに。

彼が使うデッキはペンギンデッキ。

動物の中でペンギンが一番好きだからという単純な理由で使っている。

本人にとっては、このデッキを使いこなせるのは自分だけのようだ。

カイン

年齢 16

性別 男

髪型：赤色で髪が一部立っている。
目の色は赤。

誕生日 9月16日

：昔からの遊泳の親友。過去に起きた事故で遊泳を救い、今は二人で生活している。
現在は遊泳とは兄弟のような関係にもなっている。
苦勞しながらも、これからも遊泳の面倒を見続けていく。

が、遊泳はデュエルアカデミアの寮に住むことになったのでそこまで苦勞することはないだろう。

彼もデュエルをするようだが、
自慢できるようなデッキが無いという理由で
遊泳との対戦経験が全くない。

鉄くろがね里士さとし

年齢 15

性別 男

髪型：黒色で垂れている。
目の色は茶色。

誕生日 8月1日

・デュエルアカデミアの生徒。
デュエルの才能が人一倍の遊泳を当校に誘うため、
遊泳にデュエルを申し込む。
これにより遊泳の本当の人生が始まる・・・。

彼の使用するデッキは地属性。
本人にとってはあまり自信がないらしい。

覇道はどう 裂夜れつや

年齢 18

性別 男

髪型：肩までの長い髪で空色。
目の色は赤で左目には傷がある。

誕生日 4月2日

・デュエルアカデミアの生徒。
彼の詳細は不明だが、デュエルの腕は相当なもの。
学園内で唯一の左利きである。
使用デッキも不明。

空野^{そらの} 天子^{てんこ}

年齢 15

性別 女

髪型：ロングヘアーでとても明るい黄色。
目の色は黄色。

誕生日 8月1日

：デュエルアカデミアの生徒。

デュエルバカで有名な遊泳のことが気になっている様子。
彼女もデュエルバカの一人だとか・・・。

使用デッキは不明。

Mr・K

年齢 （おっと、プライバシー保護ですよ。BY Mr・K）
性別 男

髪型：白髪。一部立っていて両目に垂れ下がっている。
左目しかよく見えないくらい。

誕生日 1月17日

・デュエルアカデミアの教頭。

鉄の提案により、遊泳をデュエル部に誘うように鉄を
遊泳の元へと派遣した。

オカルト話が大好きで、その恐ろしさが
何人もの生徒を気絶させてしまう。

使用デッキはアンデット族デッキ。

エースは イモータル・デス・ソーサラー

Mr・W

年齢 26

性別 男

髪型：水色で大好きブルーノちゃんと似たような髪形。
目の色は水色。

誕生日 9月9日

・デュエルアカデミアの生物学の教師。

遊泳と同様にデュエルバカで、

授業中でもデュエルのことを考えて、

生徒に教えることを忘れてしまうことがある。

使用デッキは不明。

TURN 01「新たな伝説の幕開け」

遊戯王 Eternal Bonds

TURN 01「新たな伝説の幕開け」

遊泳「行け！ ペンギン・ウォリアー！ダイレクトアタック
！！」

対戦相手「ぬぐああああ！！」

対戦相手 LP 800 ↓ 0

WIN Yuei

今、俺は街の噴水広場でデュエル中だった。

結果は俺がノーダメージで圧勝だった。うむ、俺のペンギン達は
いつも輝いている！

ああそつだ・・・紹介がまだだった・・・。

俺の名は 天銀てんぎん 遊泳ゆうえい・・・ペンギンモンスター使いのデュエ
リストさ。

今は時代の変化に伴い、ペンギンモンスターが増えてきた。

もちろん俺のデッキには、 ペンギン・ソルジャー や 大皇帝
ペンギン も入っている。

俺がペンギンモンスターを使う理由としては・・・
単純に動物の中でペンギンが一番好きだから。うん、それだけ。

このときの俺はただ純粹にデュエルを楽しむ生活をしているだけ。
・・・

この後俺は・・・俺の本当の人生が始まる出来事が起きた・・・。

〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓 オープニング〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓

今は召喚システムはシンクロとエクシーズ、融合、儀式。
これといって新しい召喚方法は生み出されていない。

今でもガチカードを使う人は多い。

俺はそんなカードは持っていると言えは持っているがほんの僅か。
でも俺は今のこのデッキが好きだ・・・だからあまりデッキは変
えたりはしない・・・。

ん？俺が普段どんな生活を送っているのかつて？
聞いて驚くなよ？俺の日常生活はな・・・。

〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓
〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓

これは昼飯前のときの風景だ。

？「おい遊泳。少しは昼飯作るの手伝ってくれよ・・・。」

遊泳「えゝだつて俺料理下手だし料理めんどくさいしコンビニで買えばいいし。」

俺はこの通り、料理は苦手。というよりやり方はほとんど知らず、手伝うことくらいしかしない。

コンビニで弁当買いに行くほうがよっぽど楽だ。

？「お前なあ．．．じゃあ、ゴミの日にお前のペンギンカードを出していいか？」

遊泳「ははっ！カイン様っ！すぐに昼飯のご用意を致しますっ！カイン様は椅子にお掛けになつてくださいっ！」

カイン「はは．．．やれやれだぜ．．．ていうかカイン様とか言うな。水臭い。」

遊泳「まあ、いつものことだからわかつてると思うけどよ．．．俺の料理．．．あまり期待しないほうがいいぜ？」

カイン「いいや、いくらお前の料理が激不味でも真心が込められてたらそれでいいさ。」

遊泳「褒めてるのか貶してるのか．．．。」

さすがに俺の大切な大切なカードを人質（？）にされたらこれは従うしかない。

俺の元気の源を捨てられたら俺は恐らくショック死しそうだ。

ま、俺はこの通りのんびりとした生活をしているのさ。

今はちょうど昼飯の時間で次のデュエルに向けての補給タイム。
ちなみに、俺の基本的な日程は以下の通り。

6時 デッキ調整
7時 朝飯
8時 デュエル
12時 昼飯
13時 デュエル
19時 晩飯
20時 フリータイム
21時 就寝・・・と見せかけて深夜アニメ視聴へ向けて起きる
22時 カインにボコられ、結局は寝る
23時 ベッドに入り、二人で寄り添いあい・・・

というわけだ・・・。

カイン「こら最後ちよつと待て。誤解を招くようなこと言っんじやねえよ。」

しかもいつから日程がデュエルオンパレードになったんだよ!」

遊泳「悪い悪い。これはもちろん冗談だ。俺ん家にベッドはなく、布団だけだ。」

カイン「まったく・・・飯のときに変なこというなよな・・・。」

まあ、こんな風に俺とカインは仲良く暮らしている。
ちなみにカインっていう奴は俺の親友だ。
過去に起きた事故のときに、俺を助けてくれた・・・。

遊泳「さあ、デュエルだっ！誰か俺を満足させてくれよ！！」

？「あのゝ．．．。」

家から出ると、突然男の声がした。

遊泳「おうっ！ナニカナナニカナ？デュエルなら大歓迎だぜ！」

俺は目を人一倍輝かせてその人に近づく。

おっと、思わずキスしかけ．．．いや何でもない。

？「わわっ！ビックリさせないでくれよ．．．。」

カイン「なあ遊泳。少しは落ち着いたらどうだ？」

遊泳「だってこいつデュエルしに来たんだろ？落ち着いてる暇な
んかないぜ！」

？（．．．なるほど．．．あの人の言うとおり、デュエル好きか．
．．。

誘う前にこいつがどれほどの腕か．．．俺が試して見るか．
．．。）

？「よし！早速だけど、俺とデュエルしようぜ！」

遊泳「ああ！」

鉄「俺の名は 鉄くろがね 里士さとし だ。よろしくな！」

遊泳「ああ、俺は天銀てんぎん 遊泳ゆうえい だ。

鉄 LP 4000
遊泳 LP 4000

鉄「それじゃあ、先攻は俺が貰うぜ！ドロー！

巨大ネズミ を召喚！」

ATK 1400 LV 4（ちなみに効果音はZEXAL
仕様）

鉄「カードを1枚伏せてターンエンド！」

遊泳（・・・地属性デッキか・・・？）

「俺のターン！ドロー！」

遊泳はじっくり手札を眺め、最初の一手を考える。

遊泳「ペンギン・リクルーター を召喚！」

ATK 1300 LV 3

遊泳「さらに魔法カード アクア・ジェット を発動！

水族・魚族・海竜族モンスター1体の攻撃力を1000ポ
イントアップ！

こいつで ペンギン・リクルーター の攻撃力が1000
ポイントアップする！」

ATK 1300 +1000 = 2300

遊泳「バトル！ 巨大ネズミ を攻撃だ！」

ペンギン・リクルター から強烈な水鉄砲が放たれ、 巨大
ネズミ を倒す。

敗れたモンスターは光となって散る。

鉄「わお・・・なかなかやるね・・・」

攻撃力2300対1400・・・その差の900ポイントが
俺のダメージとなる。」

鉄 LP 4000 - 900 〓 3100

遊泳「どうだ！これが俺のマジックコンボ（笑）だ！」

鉄「だが、 巨大ネズミ の効果が発動！戦闘で破壊され墓地
へ行ったとき、

デッキから攻撃力1500以下の地属性モンスター1体を攻
撃表示で特殊召喚できる！

俺が呼ぶのは ナチュル・チェリー だ！」

ATK 200 LV 1

遊泳（チューナーモンスターか・・・！

次のターンにシンクロ召喚するつもりか・・・なら・・・

！

カードを1枚伏せてターンエンドだ！」

遊泳はチューナーモンスターを相手が召喚した場合、よく警戒す
る。

強力なシンクロモンスターを出してくるからである。

鉄「ふっ・・・俺のターン・・・」

ゴブリンエリート部隊 を召喚！」

ATK 2200 LV 4

鉄「レベル4の ゴブリンエリート部隊 に

レベル1の ナチュル・チェリー をチューニング！シンク
口召喚！

いでよ！ ナチュル・ビースト ！」

ATK 2200 LV 5

遊泳「だが攻撃力は2200・・・まだ俺のモンスターのほう
が攻撃力が上！」

鉄「焦るなつて・・・装備魔法 団結の力 ！」

俺の場の表側表示モンスター1体につき800ポイント、
装備モンスターの攻撃力・守備力がアップする！」

ATK 2200 +800 〓 3000

カイン「攻撃力3000だと!？」

いとも簡単に 巨大ネズミ を倒させたのもこれが狙いだつたこ
とに気づくカイン。

これにより強力なモンスターが召喚されたことに動揺を隠せない
様子だつた。

鉄「さらに ジャンク・アタック を装備！

戦闘でモンスターを破壊し、墓地へ送つたとき、
そのモンスターの攻撃力の半分のダメージを相手に与える！」

遊泳「く・・・！」

鉄「バトル！ ナチュル・ビースト で ペンギン・リクルータ
ー を攻撃！」

遊泳「させるかよ！トラップ発動！ ポセイドン・ウェーブ！

モンスターの攻撃を無効にし、さらに俺の場の

水族・魚族・海竜族モンスターの数×800ポイントのダ
メージを相手に与える！」

鉄「ほう・・・そうきたか・・・だがそう簡単にはいかないぜ？」

遊泳「・・・！」

鉄「カウンタートラップ ギャクタン！

罠カードの発動を無効にし、そのカードを表向きでデッキに
戻す。

そしてそのカードを相手がドロウするまで、相手は同名カー
ドを発動できない！」

遊泳「なにっ！？」

鉄「バトルは続行され、お前はバトルで700ポイント・・・

ジャンク・アタック の効果で650ポイント・・・

合計1350ポイントのダメージを受けてもらっぜ！」

遊泳「どわあっ！」

遊泳 LP 4000 - 700 - 650 〃 2650

遊泳「だがこの瞬間、ペンギン・リクルーター の効果発動！
戦闘で破壊されたとき、デッキからレベル4以下のペンギ
ンモンスター1体を

特殊召喚できる！現れる！ペンギン・アーチャー ！！」

ATK 1400 LV 4

鉄「・・・カードを1枚伏せてターンエンド・・・。」

鉄 LP 3100

遊泳 LP 2650

遊泳「俺のターン！

2枚目の アクア・ジェット を発動！攻撃力を1000
ポイントアップだ！」

鉄「無駄だ！ ナチュル・ビースト の効果発動！

デッキの上からカードを2枚墓地へ送り、魔法カードの発動
を無効にして破壊することができる！」

パリーーン！

カードが破壊されたときに鳴る効果音だ。

響き渡るこの効果音は、キーカードの発動を無効にされ、
ショックを受けた遊泳の心を表しているとも言っているだろう。

遊泳「デッキのカードを2枚墓地へ送るだけで魔法カードを封じ
るだ・・・！？

インチキ効果もいい加減にしる!!」

鉄「さあ、どうした?もう打つ手は無いのか?」

遊泳「く・・・ペンギン・アーチャー を守備表示に変更・・・
そしてモンスター効果。1ターンに1度、手札のペンギン
モンスターを

2体まで捨て、このカードの攻撃力を
エンドフェイズまで捨てた枚数×300ポイントアップす
る!」

遊泳は ペンギン・ブースター を捨てる。

遊泳「カードを2枚伏せてターンエンドだ。」

DEF 1000

鉄「苦し紛れにモンスターを捨てたか。さすがにお前も焦っているな。」

遊泳「・・・。」

鉄「じゃ、俺のターンだ!」

遊泳（やばい・・・魔法カードを封じられたのなら・・・
俺に勝機は無いかもしれない・・・だが諦めるわけにはい
かねえ!）

鉄「2体目の 巨大ネズミ を召喚!」

ATK 1400 LV 4

ナチュル・ビースト A T K 3 0 0 0 + 8 0 0 ≡ 3 8 0 0

鉄「さらにフィールド魔法 ガイアパワー を発動！

地属性モンスターの攻撃力を500ポイントアップし、

守備力は400ポイントダウンする。」

巨大ネズミ A T K 1 4 0 0 + 5 0 0 ≡ 1 9 0 0

ナチュル・ビースト A T K 3 8 0 0 + 5 0 0 ≡ 4 3 0 0

遊泳「こ・・・これはやりすぎでは・・・ない・・・か・・・？」

魔法カードを封じる凶悪なモンスターをそう簡単に倒させてくれない・・・

遊泳の闘志は消えかかっていく。

鉄「さあいくぞ！ 巨大ネズミ で ペンギン・アーチャー を
攻撃！」

カイン（この攻撃を受けて ナチュル・ビースト の
ダイレクトアタックを受けたら遊泳の負けか・・・。）

遊泳「トラップ発動！ ペンギン・ガード ！

ペンギンモンスターが攻撃対象になったとき、

デッキからレベル4以下で守備力2000以下のペンギン
モンスター1体を墓地へ送り、

その守備力分、対象モンスターの守備力をアップする！

ペンギン・ガードナー を墓地へ送る！」

ペンギン・ガードナー D E F 1 9 0 0

DEF 1000 +1900 ≡ 2900

鉄「うおっ！守備力を上げてきたか！」

鉄 LP 3100 -1000 ≡ 2100

遊泳「さらに、このカードの発動時、相手に戦闘ダメージを与えたとき、

攻撃モンスターを破壊する！」

鉄「ほう……。」

これなら直接攻撃での大ダメージはない。遊泳は心の中でホッとした。

鉄「だが ナチュル・ビースト の攻撃が残っている！

ナチュル・ビースト で攻撃！！」

遊泳「…… ペンギン・アーチャー の攻撃力は1400……
その半分の700のダメージを受けるのか……。」

遊泳 LP 2650 -700 ≡ 1950

ジャンク・アタック の効果を受けたものの、
なんとかライフを多く保つことができたと安心する遊泳。

鉄「悪いが、まだ俺のバトルフェイズは終了してないぜ！

永続トラップ リビングデッドの呼び声 ！墓地のモンスター
Iを

攻撃表示で特殊召喚する！」

巨大ネズミ A T K 1 4 0 0 + 5 0 0 ≡ 1 9 0 0

遊泳「んなっ！？」

鉄「ダイレクトアタックだ！」

遊泳「ぐわっ！」

立体映像だとわかっていても、その凄まじい迫力で本当にダメージが通っているような感じだった。

遊泳 L P 1 9 5 0 - 1 9 0 0 ≡ 5 0

遊泳「げっ！もう俺のライフがほとんど残ってねえ！」

カイン「おい何やってんだよ！デュエルチャンピオン目指してるんじゃないのかよ！」

遊泳「んなこと言われても・・・魔法カードも封じられているのに・・・」

しかもライフが残り50・・・どうすればいいんだ・・・。

「

鉄「ターンエンド・・・天銀 遊泳・・・それほど大した相手ではなかったな・・・。」

鉄 L P 2 1 0 0

遊泳 L P 5 0

遊泳「・・・この状況を何とかするカードが来れば・・・

俺だつてやるときはやるさ……。まずはカードを引くんだ！」

俺のターーーーン!!!!」

この遊泳の声が響き渡る。(一応近所迷惑にならない程度)

遊泳「・・・来た・・・！」

鉄「ん？」

遊泳「チューナーモンスター チューン・ペンギン を召喚！」

ATK 500 LV 3

遊泳「このカードが召喚に成功したとき、

墓地のレベル3以下のペンギンモンスター1体を特殊召喚できる！」

ペンギン・リクルーター を特殊召喚！」

ATK 1300 LV 3

遊泳「さらに、この効果で特殊召喚したモンスターのレベルを1つ下げることができる！」

レベル2 ペンギン・リクルーター に、レベル3 チューン・ペンギン を

チューニング!!」

鉄「こ・・・この状況でシンクロ召喚だと!？」

遊泳「遙か彼方の大地の戦士よ・・・正義の叫びとともにその姿を現せ！」

シンクロ召喚！現れる！ペンギン・ウォリアー！！」

戦士の鎧を身に着けた巨大なペンギンが現れる。

ATK 1900 LV 5

このモンスターは遊泳の主力モンスター。

シンクロ召喚に成功するといつも遊泳はうれしそうな顔をする。

遊泳「このカードの攻撃力は、
俺の場のペンギンモンスターの数×200ポイントアップ
する！」

ATK 1900 +200 ≡ 2100

遊泳「トラップ発動！ペンギン・オーバードライブ！」

自分フィールドのモンスターがペンギンモンスター1体の
みの場合に発動できる！

そのモンスターの攻撃力を1000ポイントアップし、
このターン、選択したモンスターだけが攻撃可能になり、
相手フィールドのモンスターすべてに1回ずつ攻撃できる
！」

鉄「なにっ!？」

ATK 2100 +1000 ≡ 3100

遊泳「いくぜ！バトルだ！ ペンギン・ウォリアー で 巨大ネズミ を攻撃！」

誇り高き戦士のようなペンギンの凄まじい一撃が巨大ネズミを襲う。

鉄「うおっ！？」

鉄 LP 2100 - 1200 ≡ 900

鉄「俺は 巨大ネズミ の効果は使用しない。
奴の連続攻撃を喰らうからな……。」

遊泳「……。」

鉄「それに、モンスターが減ったことにより、
ナチュル・ビースト の攻撃力が下がるが、
それでも十分な攻撃力を保っている！」

ATK 3500

鉄「お前のモンスターの攻撃力じゃあ、
俺のモンスターは倒せない！しかも、エンドフェイズには
お前のモンスターはゲームから除外される！
これでお前の場はがら空き！次のターンで終わりだ！」

遊泳「ふっ……それはどうかな？」

鉄「なに……？」

遊泳「あの時、何で ペンギン・アーチャー の効果で
わざわざ手札を捨てたと思う？」

鉄「な・・・ま・・・まさか・・・！？」

遊泳「そう・・・俺のキーカードは・・・墓地にあつてこそ発動
する

ペンギン・ブースター さ！」

そう。遊泳の真の狙いはわざと手札を墓地へ捨て、効果を発動す
るため。

鉄は驚きを隠しきれない表情だ。

遊泳「自分のペンギンモンスターが戦闘で相手モンスターを破壊
したとき、

このカードをゲームから除外することで、そのペンギンモ
ンスターの

攻撃力をエンドフェイズまで倒したモンスターの攻撃力分
アップさせるのさ！」

鉄「ぐっ・・・！」

カイン「そうか！ ペンギン・ブースター の効果は
戦闘でモンスターを倒すのが条件・・・

倒した後で効果を発動しても2回目の攻撃はできない・・・
。

この効果を生かすために ペンギン・オーバードライブ
がある・・・。

「このためにあの時わざとあのカードを墓地へ送ったのか！」

カイン・・・説明乙です。

遊泳「というわけだ！とどめの一撃、いくぜ！」

ATK 3100 +1900 ≡ 5000

鉄「攻撃力5000だと・・・！？」

遊泳「ペンギン・ウォリアーでナチュル・ビーストを攻撃！

ペンタレス・ブレードおおお！！！！！」

この一撃でナチュル・ビーストが一瞬で倒させる。

鉄「ぐわああああああああ！！！！！」

鉄 LP 900 -1500 ≡ 0

WIN Y u e i

遊泳「おっし！勝ったぜ！」

このデュエルを見ていたカイン、そしていつの間に来たのか、周りの観客からの拍手が響き渡る。

遊泳「やはは〜どうもどうも〜。」

るところだろ？」

もちろんデュエルだけではなく勉強だつてしなければならない。
恐らくこいつはデュエルのためだけに入学するつもりだろう。
まあこいつのことだ。学問の成績の悪さで即退学になるだろうな。
案の定、

遊泳「デュエルのためならどこにでも行くぜ！

おい！入学金は！？制服は！？場所は！？」

この通り、遊泳は落ち着くこともできなくなった。

「デュエル」という言葉にはよく反応する。

カイン「入学金が・・・確かに気になるな。

ここんところ、消費があれなんだよな・・・。」

鉄「いえ、デュエル部からの推薦ですので、

デュエル部に入るだけなら入学金はそれほどかかりませんよ。
手続きも簡単です。この書類の通り。」

カインと遊泳に普通の入学の手続きと

デュエル部に入部するだけの場合の手続きの書類が渡された。

カイン「部活入部だけのほうが手続きは楽だし、金もあまりかからない。
遊泳。お前部活だけでいいだろ？どうせ勉強はだめだし。」

遊泳「デュエル部！もちろん俺はデュエル部だ！

勉強なんかどうでもいい！デュエル部に入部させてくれ！」

だれかこいつを黙らせてくれ。カインはそう心の中で叫んだ。

カイン「・・・決まりだな。ていうかデュエルアカデミアってデュエル中心だろ？」

鉄「ええ。学問のほかに、1週間に1度、デュエルの実習をする授業があります。」

カイン「授業はそこだけ出席・・・ってことはできないか？」

鉄「まあ・・・一応できますね。」

遊泳「うほっ！！」

カイン「じゃあ、そうさせてもらう。それと・・・授業中にこのバカが迷惑かけたら

すぐに教室から追い出してもいい。」

鉄「了解しました。では、入学許可書は後日お届けします。それでは、失礼します。」

そっぴい残し、鉄は家から出て行った。

デュエルアカデミア・・・いったいどんなところだろうな・・・。

ワクワクが止まらない俺……歓喜死しそうなくらいだ。

デュエルアカデミア・・・俺は後日、デュエル部に入部することになった。

それは……俺の人生の始まりと云っていい……。

そして、失われた俺の過去の記憶……。

これを思い出そうとするとワクワクがいきなり消えて、やはり頭痛がしてくる……。

だから俺はもう事故のことは考えないことにした。

それはさておき……これから俺のデュエルライフの始まりだ

!!

待ってるよ……デュエルアカデミア！！

[illegible]

次回予告

遊泳「デュエルアカデミアのデュエル部に入部した俺。

だがその前に待っていたのは教頭先生「Mr・K」とのデユエルだった。

それはまだいいが、やばいのは負けたら先生の恐ろしいオカルト話に一日中付き合わなければならないということ。とにかく先生のオカルト話は恐ろしいらしく、

一度に何人もの生徒が長時間気絶するほどらしい。
気絶なんてごめんだぜ！絶対に負けるわけにはいかねえ！」

次回 TURN 02 「悪夢のデュエル 恐怖のアンデ
ットデッキ」

遊泳「デュエルスタンバイ！」

今回の最強カード

遊泳「今回の最強カードは ペンギン・ウォリアー！」

攻撃力1900、守備力900だが、自分フィールドのペ
ンギンモンスターの数だけ

攻撃力がさらに200ポイントアップだから、実質攻撃力
2100。

もし戦闘で破壊されても、手札のペンギンモンスターを除
外すれば

復活するすげーモンスターなんだぜ！」

テキスト

ペンギン・ウォリアー

5 ATK / 1900 DEF / 900

水属性・水族・シンクロ／効果

「ペンギン」と名のついたチューナー

+ チューナー以外の「ペンギン」と名のついたモンスター1体以上

このカードの攻撃力は自分フィールド上に
表側表示で存在する「ペンギン」と名のついたモンスターの数×2
00ポイントアップする。

このカードが戦闘によって破壊され、墓地へ送られたとき、
手札から「ペンギン」と名のついたモンスター1体をゲームから除
外すること

次のスタンバイフェイズ時に墓地に存在するこのカードを
守備表示で特殊召喚する。

TURN 02「悪夢のデュエル 恐怖のアンデットデッキ」(前書き)

デュエル部に入部することが決定した遊泳。

早速デュエルアカデミアに向かい、

教頭Mr・Kとデュエルすることに。

そこで一人の女子生徒、天子から

Mr・Kの恐ろしい罰ゲームの話を聞く・・・。

TURN 02「悪夢のデュエル 恐怖のアンデットデッキ」

遊戯王 Eternal Bonds

TURN 02「悪夢のデュエル 恐怖のアンデットデッキ」

デュエルアカデミア入学許可書が遊泳に届いたのは鉄とのデュエルを終えてから2日後のことだった。

鉄 里士・・・彼はそのデュエルアカデミアの生徒の一人だった。遊泳と彼のデュエルが、遊泳の心を刺激したかもしれない。遊泳はこの日をずっと心待ちにしていたのである。

・デュエルアカデミアとはどんなところなのか・・・。
・いろいろな人とデュエルができる・・・。
・もしかしたら自分より強い人が集まっているかもしれない・・・。
・

その他様々な期待が遊泳の心に詰まっている。そんな彼は、興奮しすぎて眠れず、寝不足になってしまったという・・・。

遊泳「ふぁゝあ・・・眠っ・・・。」

カイン「もう少し落ち着いて寝ることはできないのか？」

遊泳「ほえ？まあ、デツキの調整が忙しかったし、

今日のことを考え続けてたし、まあ、いろいろあったから
な……。」

カイン「いろいろとありすぎだろ。」

遊泳「たちは朝早くから雑談を交わし、朝一のミルクを飲んでいた。

遊泳のことなら、多少の寝不足でもデュエルと聞いたら

寝不足など一切気にしないだろうとカインは思っていたが、
実際はこの有様である。

デュエルバカの肩書きを持つ遊泳でも、睡魔には勝てなかった。
だが、遊泳のデュエル精神が睡魔をある程度抑えている……
カインはそんなことを考えていた。

遊泳「ところでさ、カインはどうするんだ？

お前もデュエルアカデミアに入学するのか？」

カイン「ああ、俺か？まあ気が向いたらな。

俺の自慢のデツキのキーカードが足りなくなてな……、
それが揃っていたら俺も入学しようと思っていたが……

。」

遊泳「キーカードねえ……。」

カインはいったいどんなデツキを作っているのか……

遊泳はカインのデュエルをあまり見たこともないし、

デュエルしたこともなかった。

デッキの調整をしているところを覗いたことはあったが、カードはあまりよく見えなかった。

遊泳「なあ、その足りないキーカードって何だよ？」

カイン「そんなの言えるわけないだろ。

それでデッキの内容がばれたらまずいし……。」

遊泳「……だろうな。」

遊泳はそう呟いて舌打ちした。

やはりそう簡単に内容は明かしてくれない。

いや、まず明かす人はいないだろうと、遊泳は改めて思った。

楽しみは最後までとっておけということだ。

カイン「もう出発の準備はできたか？」

遊泳「ああ。」

カイン「アカデミアの場所は、この紙に書いてあるとおりだ。

後はあつちで頑張れ。たまに俺もそっちへ行くから。」

遊泳「ああ……行つて来るぜ！」

遊泳はそういい残し、家から出て行つた。

カイン「……さて、パックの買出しでも行つて来るか……。」

あいつにも何かあげればよかったな……。

カインも家から出ると、あることを考え出した。

カイン「久しぶりに一人になっちゃったな……」

「そういえば、遊泳と一緒に暮らすようになったのは結構前のことだったな・・・。」

[illegible]

事故の風景

あの時の事故以来、俺は奴と暮らすようになった。

何の前触れもなく起きた事故・・・

それはあるカードの力によって起きた大爆発。

これにより、遊泳の住む町が炎に包まれた・・・。

あの時、俺が遊泳の家に遊びに行く予定がなかったら

遊泳はあのとくに逝つちまつたかもしれない・・・。

俺は炎の中から辛うじて遊泳を助けることはできたが、

両親はさらに家の奥にいて、そこは火の手がより激しく、

俺の手には負えなかった……。

気になる事件の原因だが・・・。

カイン「カード……？」

「ええ。カードから物凄い力が放出され、大爆発まで至ったのです。」

成分やカードデータの解析、様々な手を尽くしましたが・・・特に何の異常もないただのカードなのです・・・。」

カイン「嘘だ！あんな恐ろしいことになって、

何も無いはずがない！ということなんだ！！」

「詳しいことはわかりません。今でも解析中で・・・しかし、何の進展も・・・、」

カイン「・・・。」

「しかし、変わったことといえば絵柄ですね。」

カイン「絵柄・・・？」

「フレームは魔法カード。絵柄は・・・妙なことに真っ白なのです・・・。」

カイン「つまり・・・絵柄がない・・・ということか・・・。」

「またわかったことがあれば、お知らせします。」

カイン「・・・。」

1枚のカードから起きた事故・・・

しかしそれ以外わかったことは何もなく、

こんなことは下手な化学反応でもまず普通はありえない事故だ。

事故の真相は完全に闇の中……いや、

闇の中どころか、どこにもない……そんな事故だった……。

あの事故は遊泳は大切な存在の記憶を消し去るほど恐ろしい事故だった。

その記憶はまだ遊泳には戻っていない。

[illegible]

なんとか・・・あの事件の手掛かりを見つけてほしい・・・

遊泳の大切な存在の記憶が戻ってほしい・・・。

そして、一日でも早く事故の真相を解明してほしい……。

そんな思いを抱き、カインはカードシOPPへと足を運んだ……

○

カインがカードショップから家に帰ろうとした頃、

遊泳は電車からデュエルアカデミアへ行くバスに乗り換えた。

そのとき、遊泳はカインと同じようなことを考えていた。

大切な存在の記憶はあの事故によって消え去った……。

その大切な存在本人が会いに来たとしても

ある程度刺激しない限り、思い出すことはないだろう。
大切な存在の特徴自体、記憶にほとんどないのである。

このことを考えていた遊泳に、やはり頭痛が襲う。

無理に思い出そうとせず、自然に思い出すのを待とうとする。

しかし、その意思はいつも自然と消え、

やはり考えずにはいられない。

気がつくと、次のバス停はデュエルアカデミア前。

気づくのが少しでも遅かったら面倒なことになっていたかもしれない。
ない。

これからのデュエルが楽しみだ。

その思いが、頭痛を完全に消し去った。

遊泳「デュエルアカデミア……。待っていてくれよ……。！」

しかし、バスが止まらず、バス停を通過してしまった。

遊泳「え？ちょっと待ってくれ！なんで止まらないんだよ！？」

運転士「え〜っと……。お客さん……。ブザー押してないじゃないですか。」

遊泳「え？」

運転士の言うとおり、バスを降りることを知らせるブザーを
押していないことに気づいた遊泳。

「遊泳」しまったあああああああああああ！！！！！！！！！」

その声はバスの窓を貫通しそうな声だった。

下手したら、バスの乗車客全員の鼓膜が破壊されていただろう。この後彼は、次のバス停からダッシュでアカデミアに戻る。

しかしここからだとかアカデミアまでは相当な距離があり、今の時間だと1時間目の遅刻は免れることはできない。

尤も遊泳は授業ではデュエル実習しか出席しないことになっているため、

1時間目にでる必要はない。遅刻の心配もないということだ。

しかし、デュエルバカである彼は

またこのようなボケを連発してしまう可能性もある・・・。
これから遊泳は学園で無事にやり過ごせるだろうか・・・。

「オープニング」

「CM（内容は
各自のイメージにお任せします。）」

学校のチャイムが鳴り響く。

1 時間目の授業が始まる頃である。

生徒達は授業に集中しているが、

遊泳はそんなことなど全く気にしないのである。

遊泳「どこだどこだどこだどこだあぁっ!!!」

職員室はどこだぁーっ!!!」

遊泳はこの通り生徒達の授業妨害をしている。

騒ぎながら、そしてドタバタしながら職員室を探し回っていた。

教師「ちよつとあなた！今は授業中です！

早く教室へ戻りなさい！」

遊泳「ん？あんた誰？」

遊泳は自分の態度も気にしない。

現実で真似するとただではすまないだろう。

教師「あら、あなた・・・見かけない顔ね。

もしかして・・・入学希望の方ですか？」

遊泳「まあ、そうですね。ところでおばさん誰？」

教師「~~~~~!!!」

教師は怒りを込め、遊泳に一太刀かました。

。 遊泳「うお……この痛みはブルーアイズを超える痛みだ……

先生……攻撃力いくつですか？」

遊泳は性懲りもなく変なことを聞く。

教師「はあ……馬鹿なこと聞かないでちょうだい。
で、あなたは何をやっているの？」

遊泳「ああ、職員室に行こうとしているんですが……
どこっすか？」

教師「職員室なら、その階段を昇ればすぐよ。」

遊泳「あざーっす！」

遊泳はその場から走り去った。

そして教師は教室に戻る。
その教師はさっそく遊泳を問題児として見込んでしまったようだ。

遊泳は何とか職員室に到着。

遊泳「失礼しま〜す！」

やはり遊泳の態度はこの通り。

これで職員室にいる教師は全員、遊泳を問題児扱いしてしまう・

普通ならそうなるが・・・。

教師A「やあ！君が遊泳君だね！」

そう快く遊泳の名前を呼ぶ教師がいた。

遊泳「まあ・・・そうっす・・・。」

Mr・W「僕は水野 みずの 飛沫 しぶき っていうんだ。

デュエル部の顧問の一人！

そしてコードネームはMr・W！よろしくね！遊泳君！」

遊泳「こ・・・コードネーム・・・！？」

Mr・K「私は 鎌田 かまた 幽徒 ゆうと。」

本校の教頭であり、デュエル部の顧問でもあります。

そんな私を人呼んでMr・K。何卒、よろしく願いします。」

遊泳（何か不気味なオーラを放つ先生だな・・・。）

実際、彼を怒らせると怖いらしい。（Mr・Wの体験談）

Mr・W「そういえば、君はデュエル部へ入部するんでしょう？」

とある女子生徒「あーっ！あの人・・・見たことあるよ！」

教師「ちよっ・・・天子さん！お静かに・・・、」

天子「ゆうえー！ー！いつ！！！」

突然、一人の女子生徒が飛び出してきた。

遊泳「あ！やせいの　じょしせいと　が　とびだしてきた！」

天子「ねえねえ！君、あの天銀　遊泳でしょでしょ！？」

遊泳「ん？まあ、そうだけど？ていうかあんた誰？」

天子「空野そらの　天子てんこっていうんだ！よろしくね！」

遊泳「よろしくって言われても、俺、デュエル以外の授業出ないぞ？」

天子「ふえ？」

天子はその言葉を聞くと、頭の上にはてなマークを浮かばせているような顔をした。

Mr・K「このお方はデュエル部からの推薦で
デュエル関係の授業の出席と、デュエル部の部活動のみでの
入学となっておりますので・・・。」

天子「へえ・・・そうだったんだあ・・・。
私達のクラスに入るかと思ったのに・・・。」

天子はしょんぼりと顔を下に向ける。

Mr・K「まあ、というわけで我々はデュエルリングへと向かいますので。」

天子「えっ！？本当ですか！？」

天子の目が人一倍輝く。

あの遊泳のデュエルが生で見れるかもしれない！
そんな期待を浮かべた目だ。

Mr・K「・・・わかっていると思いますけど、

あなた達は授業中でしたのでしっかり授業を受けてください。

」

天子「」

チャンス逃したショックが大きかったのか、
天子は言葉を失った。

Mr・K「まあ・・・放課後でしたら、彼の都合が良い間は
デュエルし放題ですから・・・。」

天子「やったあ！そんじゃ、真面目に授業受けますっ！！
次のテストで100点なんか楽勝くらいにっ！」

Mr・K「意気込みはいいのですがね・・・。」

遊泳「俺はデュエル部に入部するからさ、

放課後、俺とデュエルしようぜ。」

天子「はあい」よろしくお願いしますっ!」

Mr・K（このお方は遊泳と聞くと元気になるのですね・・・。）
では、遊泳君。行きましょうか。」

遊泳「はい!」

Mr・K「ニヤリ・・・」

天子「遊泳!後でサインちょうだいっ!」

遊泳「はいはい。わあったよ。」

天子「ああ、そうだ!先生の怪談話には気をつけて!」

遊泳「は?」

天子「よくあるじゃん!みんなで夜に集まって

怖い話をしてキャー!ーッていうようなやつ!

教頭先生に負けたら一日中その話に付き合わなきゃいけないかもしれないの!」

Mr・K（・・・チツ。）

遊泳「何が言いたいんだ?」

遊泳は天子の話がさっぱり理解できていない。

天子「わかりやすく言えば罰ゲームよ！

負けたらその怪談話で気絶させられるかもしれないの！」

遊泳「ふーん。怪談話で気絶するのか……。」「

遊泳「なに！？気絶って……。！？」

天子「しかも、一度に何人もの生徒が気絶してしまったらしくて、
気絶中は怪談話の通りのイメージが襲ってくるんだって！」

遊泳「何だよそれ……。んな恐ろしいことがあつてたまるかよ・
・。」

遊泳はやっと天子の忠告の意味が理解できた。
しかし、そんな話に動じる彼ではない。

遊泳「まあでもさ……。用は勝てばいいんだろ？」

天子「そうだけど……。教頭先生に勝てた人は
ほとんどのいないの……。だから……。気をつけてね……。」

遊泳「心配するなよ。俺が簡単に負けるわけがねえだろ。
みんなの敵は俺が討つぜ！」

天子「遊泳……がんばってね……！」

遊泳は天子の応援の言葉を聞いて、Mr・Kについていった。

天子「そういえば教頭先生に勝った人が……」

この学園に一人だけいたような……。」

天子の教室の隣の教室で、

ある生徒が遊泳たちが廊下を歩く様子を見守っていた……。

生徒「おい裂夜、どうかしたのか？」

裂夜「いや、なんでもない。気になるやつが歩いていただけだ。」

彼の名は 霸道^{はくどう} 裂夜^{れつや}。

長い空色の髪をした少年である。

彼の左目に刻まれている傷の秘密は本人以外知るものはいない。
ちなみに学園で唯一の左利きである。

裂夜「ふ……天銀 遊泳か……。」

「デュエルリング」

Mr・K「到着しました。ここがデュエルリングです。」

遊泳「こりゃ広いもんだな・・・ところでさ・・・、」

遊泳は先ほどから気になることを聞くことにした。

遊泳「負けたら罰ゲームとかどうの言っていた人がいたんですか・・・。」

Mr・K「ばれたら仕方ありませんね・・・。」

Mr・Kは簡潔に真相を明かす。

Mr・K「まあ、用はあなたが負けたら一日中、私の大好きな怪談話に一日中付き合ってくださいますよ・・・。」

遊泳「おっとそうはいかないぜ。気絶させられるくらいなら、

勝って逃げ出すまでだ！」

Mr・K「果たしてそううまくいきますかね・・・？」

遊泳「やってみればわかるさ！さあ、始めましょうか！」

二人のデュエルディスクが起動する。

遊泳、Mr・K「デュエル！！」

Yuei VS Mr・K

遊泳「俺の先攻！ドロー！」

モンスターを裏側守備表示でセット！
カードを1枚伏せてターンエンド！」

Mr・W（さあ遊泳君・・・どう動くかな？
教頭先生は強いよ・・・油断しないでね・・・。）

Mr・K「私のターン！
ブラッディ・スケルトンを召喚！」

ATK 1300 LV 4

Mr・K「さらに、装備魔法 ブラッドソード！」

Mr・K「バトル！ブラッディ・スケルトンで壁モンスター
を攻撃！」

骸骨の騎士の持つ血塗られた剣が振り下ろされる。

遊泳「ふ・・・俺のモンスターは ペンギン・ガードナー ! 守備力1900だ!

先生! あんたには反射ダメージを受けてもらっぜ!

Mr・K「ふふふふ・・・それはどうでしょう?」

遊泳「なに・・・!?」

よく見ると ペンギン・ガードナー の様子がおかしい。
さらによく見るとあの不気味な剣の呪いの力で苦しんでいた。

Mr・K「ブラッドソード はアンデット族モンスター専用の
装備魔法・・・

装備モンスターが攻撃するとき、対象モンスターの元々の
攻撃力が元々の守備力を、
ダメージステップ終了時まで半分にすることができるので
す!

遊泳「なんだと!？」

ペンギン・ガードナー

DEF 1900 ÷ 2 = 950

Mr・K「さらに、ブラッディ・スケルトン は守備モンスターを攻撃したとき、

その守備力を攻撃力が超えていれば、その差の数値分の
戦闘ダメージを相手ライフに与える!

ペンギン・ガードナーが血塗られた剣に斬られる。

遊泳「ぐ・・・ ペンギン・ガードナー は1ターンに1度だけ、
戦闘では破壊されない・・・！」

Mr・K「しかし、戦闘ダメージは有効ですよ。」

遊泳 LP 4000 - 350 〃 3650

Mr・K「そして ブラッドソード の代償・・・
装備モンスターの攻撃力は、相手に与えた戦闘ダメージの
数値分下がっていきます・・・。」

ブラッディ・スケルトン

ATK 1300 - 350 〃 950

Mr・K「ちなみに、この効果で攻撃力が0になった場合、
装備モンスターは破壊され、持ち主はそのモンスターの
元々の攻撃力分のダメージを受けます。
そして、 ブラッディ・スケルトン の効果発動！
戦闘ダメージを与えたとき、相手は二つの効果のうち、
ひとつの効果を発動させる！」

遊泳「・・・。」

Mr・K「ひとつは、手札を1枚選択して捨てる。
もうひとつはあなたがカードを1枚ドロし、
手札を私に1枚選ばせてデッキの一番下に戻す・・・。
さあ、どちらを選びますか？」

遊泳「く……。」

一つは自分から手札を1枚捨てる効果。
もう一つは俺はカードを1枚ドローできるが、
捨てる手札を捨てるのは相手プレイヤー……
ここは……、

遊泳「手札を1枚捨てる効果を選択する！」

ペンギン・ブースター

M r・K「ペンギン・ブースター ですか……

永続魔法 不死式冥界砲 を発動。

さらにカードを1枚伏せてターンエンドです。」

遊泳 LP 3650

M r・K LP 4000

遊泳「よし、俺のターン。 ペンギン・ソードマン を召喚！」

ATK 1600 LV 3

遊泳「モンスター効果発動！メインフェイズ時にこのカードの攻撃力を

ーの

エンドフェイズまで500ポイント下げること、このタ
バトルフェイズに2回攻撃ができる！」

Mr・K（ほう、そのために ペンギン・ブースター を・・・
やはりデュエルとなると、彼は真剣ですね・・・。）

遊泳「いくぜ！ ペンギン・ソードマン で
ブラッディ・スケルトン を攻撃！」

Mr・K「・・・。」

Mr・K	LP	4000	-150		3850
------	----	------	------	--	------

遊泳「そして、 ペンギン・ソードマン が戦闘で相手モンス
ターを

破壊したとき、相手に300ポイントのダメージを与える
！」

Mr・K「ぬう・・・。」

Mr・K	LP	3850	-300		3550
------	----	------	------	--	------

遊泳「ここで ペンギン・ブースター の効果発動！

自分のペンギンモンスターが戦闘で相手モンスターを破壊
したとき、

墓地のこのカードをゲームから除外することで、そのペン
ギンモンスターの

攻撃力をエンドフェイズまで倒したモンスターの攻撃力分
アップさせる。」

Mr・K「む．．．。」

ペンギン・ソードマン

ATK	1100	+950	＝	2050
-----	------	------	---	------

遊泳「これでダイレクトアタックすれば、

あんたのライフは多く削れるぜ！」

Mr・K「ダイレクトアタックねえ．．．そんなことができますか？」

遊泳「なに．．．！？」

フィールドをよく見ると、倒したはずの

ブラッディ・スケルトン がフィールドに存在していた。

遊泳「ばかな！？なぜ．．．。」

Mr・K「トラップカード リバイバル・ヘイト を発動させていたのですよ。」

戦闘でアンデット族モンスターが破壊され墓地へ送られたとき、

手札のアンデット族モンスター1体を墓地へ送り、破壊されたモンスターを攻撃表示で召喚し、このカードを装備する。

ヴァンパイア・レディ を墓地へ送り、ブラッディ・スケルトン を復活させたのです。」

ブラッディ・スケルトン

ATK 1300 LV 4

Mr・K「不死式冥界砲の効果発動。

私の場にアンデットモンスターが特殊召喚されたとき、

1ターンに1度、相手に800ポイントのダメージを与える！」

カードの映像からエネルギー砲が放たれる。

遊泳「ぐわっ・・・！」

遊泳 LP 3650 - 800 〓 2850

Mr・K「そして、相手ターンのエンドフェイス毎に

装備モンスターの攻撃力は500ポイントずつアップする・

・・・

ただし、装備モンスターが破壊されたとき、

そのモンスターの攻撃力の半分のダメージを

お互いのプレイヤーが受ける・・・。」

遊泳「じゃあ、攻撃だな。俺へのダメージはなるべく抑えたいし。」

ブラッディ・スケルトン が倒され、霊エネルギーが飛び散る。

遊泳「ターンエンドだ。」

遊泳 LP 2850 - 650 〓 2200

Mr・K LP 3550 - 750 - 650 - 300 〃
1850

Mr・W「さすが遊泳君・・・先生のライフを着実に減らしてい
っている・・・。」

でも、本当の地獄はここからだよ・・・。」

Mr・K「ふふふふ・・・。」

CMへ

〃
〃 〃

遊戯王 Eternal Bonds (EB) スターターデッ
キ 20XX

遊泳「俺の名は 天銀 遊泳 ! ペンギンデッキ使いのデュエリ
スト!

俺のペンギンデッキで、君も一緒にデュエルしようぜ!
遙か彼方の大地の戦士よ・・・正義の叫びとともにその姿
を現せ!

シンクロ召喚! 現れろ! ペンギン・ウォリアー!!」

遊戯王EB オフィシャルカードゲーム スターターデッキ
。月×日 発売!

遊泳「ルールとマナーを守って楽しくデュエルしよう！」

収録カード

トビックスンギン

ボルト・ペンギン

ペンギン・ナイト

ペンギン・ナイトメア

ペンギン・リクルーター Super

チューン・ペンギン
Super

ペンギン・ソルジャー

大皇帝ペンギン

その他諸々

ペンギン・ウォリアー
Ultra

他計2枚のシンクロ、エクシーズ

C
M
終了

[illegible]

Mr・K「ふっ……私のターン！魔法カード 不死の宝札 を発動。」

墓地の守備力0のアンデットモンスター1体をゲームから除外し、カードを2枚ドロウする。

私は ブラッディ・スケルトン を除外する。
そして ゾンビ・マスター を召喚！」

ATK 1800 LV 4

Mr・K「モンスター効果発動！手札のモンスター1体を墓地へ送り、

墓地のレベル4以下のアンデットモンスター1体を特殊召喚する！

ゾンビキャリア を墓地へ送り、
蘇れ！ ヴアンパイア・レディ ！」

ATK 1550 LV 4

Mr・K「不死式冥界砲 の効果により、800ポイントのダメージを受けなさい！」

遊泳「うおっ！」

遊泳 LP 2200 - 800 〃 1400

遊泳（まずい・・・これじゃあ、こいつらの攻撃を受けたら、

俺のライフがなくなる・・・！）

トラップ発動！ ペンギン・バインド ！

自分フィールドにペンギンモンスターが1体以上存在するときに発動できる！

このターン、相手は自分フィールドのペンギンモンスターの数までしか攻撃ができない！」

Mr・K「・・・墓地の ゾンビキャリア の効果、

手札1枚をデッキの1番上に戻すことで、

墓地のこのカードを特殊召喚する！」

ATK 400 LV 2 チューナー

遊泳「チューナーか！」

Mr・K「いきますよ・・・レベル4の ゾンビ・マスター、
ヴァンパイア・レディに

レベル2の ゾンビキャリア をチューニング！

地獄に墜ちし怨念よ・・・不死の力を得て現代へと蘇れ！

シンクロ召喚！

いでよ！ イモータル・デス・ソーサラー ！！」

ATK 2500 LV 10

。　
遊泳「レベル10のシンクロ・・・にしては攻撃力が低いな・・・」

Mr・K「このカードがシンクロ召喚に成功したとき、カードを
1枚ドロウする。

バトル！ イモータル・デス・ルーラーで

ペンギン・ソードマン を攻撃！

イモータル・デス・フレアー！！」

遊泳「ぐわあっ！」

攻撃があたった周りで大爆発が起きる。（あくまでイメージで
す。）

遊泳 LP 1400 - 900 〃 500

Mr・K「モンスター効果発動！破壊したモンスターと同じ攻撃
力を持つ

イモータルトークン 1体を特殊召喚する！」

ATK 1600 LV 4

Mr・K「そして、私のスタンバイフェイズに1度、

イモータルトークン をリリースすること

そのモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。」

遊泳「なにっ!？」

Mr・K「さらに、イモータルトークン と戦闘を行っても、

お互いへのダメージは0となる・・・。

そして、イモータル・デス・ソーサラー が破壊される

場合、

代わりに イモータルトークン をリリースして破壊を免れることができる。」

遊泳「・・・!」

Mr・K「そして、カードを1枚伏せてターンエンド!」

遊泳 LP 500

Mr・K LP 1850

絶体絶命の状況におかれている遊泳。

このターンで何とかしなければ負けてしまう。

遊泳「俺のターン!」

Mr・W「・・・。」

Mr・K「さあ、何を引いたのでしょいかね・・・。」

遊泳はカードを引いた瞬間、笑い出した。

遊泳「・・・引いたぜ・・・あのカードを！」

Mr・K「？」

遊泳「チューナーモンスター、チューン・ペンギンを召喚！」

ATK 500 LV 3

遊泳「そして、チューン・ペンギンは1ターンに1度、ペンギンモンスター1体のレベルを1つ下げることができ
る！」

ペンギン・ガードナー LV 3 - 1 〃 2

遊泳「レベル2 ペンギン・ガードナーに、レベル3 チューン・ペンギンを

チューニング！！遙か彼方の大地の戦士よ・・・正義の叫びとともにその姿を現せ！

シンクロ召喚！現れる！ ペンギン・ウォリアー！！！」

ATK 1900 LV 5

Mr・K「ほう・・・。」

遊泳「このカードの攻撃力は、自分フィールドの

ペンギンモンスターの数×200ポイントアップする！」

ATK 1900 +200 ≡ 2100

遊泳「バトル！ ペンギン・ウォリアーで

イモータルトークンを攻撃！」

Mr・K「イモータルトークンと戦闘を行っても、互いのダメージは0となる……。」

遊泳「カードを1枚伏せてターンエンドだ。」

Mr・K「私のターン。トラップ発動！ ふしこんせいせいじゅつ 不死魂精製術！

スタンバイフェイズに私のフィールドに

イモータル・デス・ソーサラーが存在するときに発動できる。

私のフィールドに攻撃力1500のイモータルトークンを特殊召喚する！

ただし、このターンイモータル・デス・ソーサラーの射出効果は使えなくなりますがね。しかし、こちらには装備魔法がある……。」

遊泳「……まさか……！」

Mr・K「そうです。装備魔法ブラッドソード！

これで私の勝利は確定した！」

Mr・W「これでペンギン・ウォリアーの元々の攻撃力1900が

半分の950になるから攻撃力は1150……。」「

Mr・K「とどめです！ イモータル・デス・ルーラーで
ペンギン・ウォリアーを攻撃！
イモータル・デス・フレアー！」

遊泳「トラップ発動！ ペンギン・シンクロ・トリガー！
ペンギンのシンクロモンスターが戦闘を行うときに発動で
きる！」

デッキの上からカードを2枚墓地へ送り、
その中のペンギンと名のついたモンスターの数だけ、
そのペンギンモンスターの攻撃力をエンドフェイズまで
500ポイントアップさせる！」

Mr・W「けど、墓地へ送るカードが2枚ともペンギンモンスター
でなければ負ける・・・！」

Mr・K「よろしい。最期の悪あがきを見せてみなさい・・・。」

遊泳「デッキチェック！」

ペンギン・ソルジャー
大皇帝ペンギン

Mr・K「ぬ・・・。」

ATK 1150 +1000 〓 2150

遊泳「これでライフがギリギリ残ったぜ！」

遊泳 LP 500 -350 〓 150

Mr・K「む・・・ターンエンド・・・。」

遊泳 LP 150

Mr・K LP 1850

遊泳「先生・・・やっぱりデュエルは最高に楽しい・・・。」

先生達だつて・・・そうだろ？」

Mr・W「僕も遊泳君と同じ気持ちだよ。」

僕もデュエルなしじゃ生きていけないかも・・・。」

遊泳「まあ、怪談話も悪くはないけどな・・・。」

生徒達を気絶させたら、その楽しさを奪うことになるんじゃないか？」

Mr・K「負けそうだからとそうやって逃げることは許されませんよ？」

遊泳「ばれたか。」

遊泳は軽く舌打ちする。

遊泳「けど、勝利の方程式くらいは揃っているさ。」

Mr・K「なんですと？」

遊泳「先生たちには本当に感謝しているさ。」

勉強は無理で、デュエルしかできない俺をデュエル部に入れてくれてさ・・・。」

Mr・W「遊泳君……。」

遊泳「この俺の感謝の気持ち……受け取ってください……！」

そう言つと遊泳は手を上げて……、

Mr・K「こ……これは……！」

遊泳「ファイナルターン！」

Mr・W「遊泳君が……ファイナルターン宣言を……！？」

遊泳「ペンギン・ウォリアーの効果発動！

手札のペンギンモンスター1体をゲームから除外して

戦闘で破壊され墓地へ送られたこのカードを守備表示で特

殊召喚できる！

リング・ペンギン を除外！」

DEF 900 LV 5

遊泳「魔法カード ペンギン・リターン！

除外されているレベル4以下のペンギンモンスター1体を

特殊召喚する！ リング・ペンギン を特殊召喚！」

ATK 100 LV 2 チューナー

Mr・W「更なるシンクロ召喚・・・！？」

遊泳「レベル5 ペンギン・ウォリアーに

レベル2 リング・ペンギンをチューニング！

遙か彼方に住む鬼神を宿し戦士・・・

その闘志を燃やし、大地を砕く！シンクロ召喚！

唸れ！ ペンギン・ファイター！」

ペンギン・ファイター ATK 2600 LV 7

遊泳「また、このカードの攻撃力は、エンドフェイズまで

このターンに特殊召喚に成功した回数×400ポイントアップする！」

ATK 2600 +400 X3 3800

遊泳「そして、リング・ペンギンの効果。

シンクロ素材として墓地へ送られたとき、

相手フィールドの守備力が最も低いモンスター1体を墓地へ送る。

イモータルトークンはトークンだから破壊される。」

イモータル・デス・ソーサラー DEF 2500

イモータルトークン DEF 0

Mr・K「しかし、それでも私をこのターンで倒すには不十分な攻撃力。

ファイナルターン宣言・・・失敗ですね。」

遊泳「いや、トラップ発動！ ペンギン・ブラスト！

俺のライフが相手のライフより低い場合、

手札1枚を捨てて発動できる！

エンドフェイズまでペンギンモンスター1体の攻撃力は

800ポイントアップし、戦闘でモンスターを破壊して墓

地へ送ったとき、

その攻撃力の半分のダメージを相手に与える！」

Mr・K「な・・・なんと・・・！」

ATK 3800 +800 = 4600

遊泳「バトル！ ペンギン・ファイターで

イモータル・デス・ソーサラーを攻撃！

ペンギン・ファイティング・パンチ！」

Mr・K「ぐおおおおお！！！！！」

Mr・K LP 1850 -2100 = 0

WIN Yui

Mr・W「すごい・・・宣言どおり、このターンで勝っちゃった・
・・・！

さすが遊泳君だよ！」

遊泳「へへっ・・・。」

Mr. K 「しかし、遊泳君は彼に似ていますね・・・。」

M
r
·
K
「裂夜君に・・・」
」

教室

裂夜（天銀・・・遊泳・・・。）

[illegible]

次回予告

遊泳「俺はこれからデューエル部で部活動を始めることになった。」

俺は実質後輩のようなものだけど、みんなからは先輩扱いされている。

だが、それでも俺は学園で2番目という扱いになっていた。

その理由を聞こうとしたら天子にデュエルを申し込まれた。そういえばまだサインあげてなかったな。

このデュエル中に俺が学園で2番目だという理由が明かされる……！」

次回 T U R N 0 3 「正義の天使光臨 ヘブンス・ア
スタート」

遊泳「まさか、実力が俺より上の奴がいるっていつのか!？」

今回の最強カード

Mr・K「今回の最強カードは イモータル・デス・ソーサラー
。

攻撃力、守備力は2500。シンクロ召喚に成功したとき、
カードを1枚ドローする。

戦闘で破壊したモンスターと同じ攻撃力を持つトークンを
特殊召喚し、

1ターンに1度、そのトークンをリリースし、その攻撃力
分のダメージを

相手プレイヤーに与える恐ろしいカードですよ。」

テキスト

イモータル・デス・ソーサラー

闇属性・アンデット族・シンクロ/効果

「ゾンビキャリア」+チューナー以外のアンデット族モンスター2体以上

このカードのシンクロ召喚に成功したとき、自分はデッキからカードを1枚ドロウする。

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送ったとき、

そのモンスターと同じ攻撃力を持つ

「イモータルトークン」(アンデット族・闇・星1・攻/？ 守/0)1体を特殊召喚する。

そのトークンが戦闘を行うことによって発生するお互いへのダメージは0になる。

また、1ターンに1度、「イモータルトークン」1体をリリースすること、

そのモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

この効果を発動するターン、このカードは攻撃を行うことができない。

TURN 02「悪夢のデュエル 恐怖のアンデットデッキ」(後書き)

本作は8／9割がオリ力ですが、
バランスはいい方でしょうか・・・？
皆様のご感想をお待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6409z/>

遊戯王 Eternal Bonds

2011年12月26日11時52分発行